

■ 概況

1/19～1/25のNYMEX・WTIは、主要産油国の協調減産と米国内の増産の動きで一進一退が続く中、51.37～53.18ドルの範囲で推移した。

1月26日は、主要産油国による協調減産が履行されているとの安心感に加え、米トランプ政権の経済政策や規制緩和による需要拡大への期待感から、反発した。3月限の終値は前日比1.03ドル高の53.78ドルだった。

週末27日は、原油先物市場が比較的堅調に推移する中、ベーカーヒューズ社発表の米国内の石油掘削リグ稼働数が566基(前週比15基増、2015年11月以来の高水準)と増加するなどし、反落した。3月限の終値は前日比0.61ドル安の53.17ドルだった。

週明け30日は、調査会社ペトロロジスティックスの1月のOPEC減産規模が90万バレル/日に達した模様との報告があったものの、米国掘削リグの高稼働、ドル高進行による原油の割高感等により、続落した。3月限の終値は前日比0.54ドル安の52.63ドルだった。

31日は、ロイターが、1月のOPEC産油量が減産目標の82%を達成したと報じたこと、ユーロ高・ドル安の進行で原油に割安感が出たことで、小反発した。3月限の終値は前日比0.18ドル高の52.81ドルだった。

2月1日は、米エネルギー情報局(EIA)の週間統計で、原油在庫が市場予想を上回る増加を示したものの、前日のOPEC減産やこの日のロシアの10万バレル/日減産の報道、さらに米国連邦準備制度理事会(FRB)の利上げ見送り声明が後押しする形で、続伸した。3月限は前日比1.07ドル高の53.88ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)は、前週51.50～53.80ドルと前々週比やや軟調に推移した。26日は54.00ドル、27日は54.30ドル、30日は53.40ドル、31日は53.20ドル、2月1日は53.10ドルで推移した。

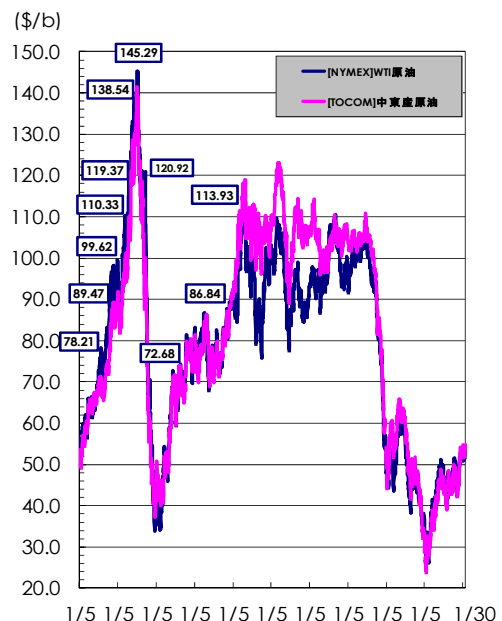
為替は、前週112.78～115.15円で推移した。26日は113.15円、27日は114.60円、30日は114.73円、31日は113.81円、2月1日は113.08円で推移した。

財務省が30日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比4,247円上げの37,632円/kl。ドル建てでは50.97ドルで前旬比5.00ドル高。為替レートは1ドル/117.39円。

主要元売会社の2月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから2.0円の値上げに分かれた。原油価格はやや値上がりし、為替レートは小幅に円高だったが、原油調達コストはやや値上がりした。

そのような中で、1月30日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がり131.0円、軽油が0.1円値下がり110.4円、灯油は横ばいの78.1円だった。ガソリンは8週振りの値下がり、軽油も8週振りの値下がり、灯油は15週振りに値上がり止まった。この週(1月第5週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きから2.5円の値下げに分かれた。

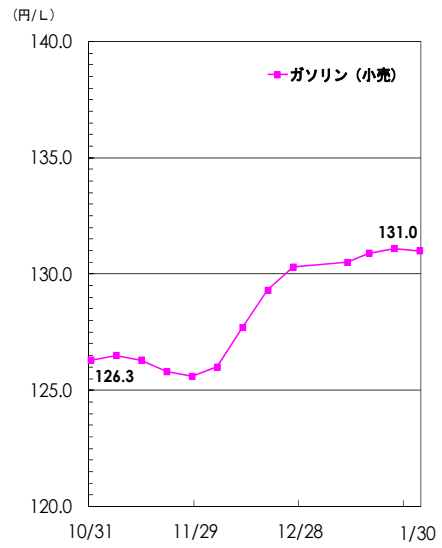
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/22 ~ 1/28	3,879 ▼ -30	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.0 ▼ -0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/28	12,897 ▼ -35	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/30	53.50 ▼ -0.09	▲ 21.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/30	52.63 ▼ -0.12	▲ 21.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月上旬	50.97 ▲ 5.00	▲ 14.04
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	37,632 ▲ 4,247	▲ 9,853
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	117.39 ▼ -1.93	▲ 2.20
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/30	115.73 ▼ -0.77	▲ 6.44



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/22 ~ 1/28	1,031 ▲ 27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,013 ▲ 32	▲ -	
	輸出	"	141 ▲ 81	▲ -	
	在庫	1/28	1,710 ▼ -122	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/24 ~ 1/30	47.4 ▼ -0.9	▲ 16.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/24 ~ 1/30	49.4 ▲ 0.2	▲ 14.3
		(TOCOM/中部)	1/30	49.0 ▼ -1.1	▲ 13.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/30	131.0 ▼ -0.1	▲ 17.6	

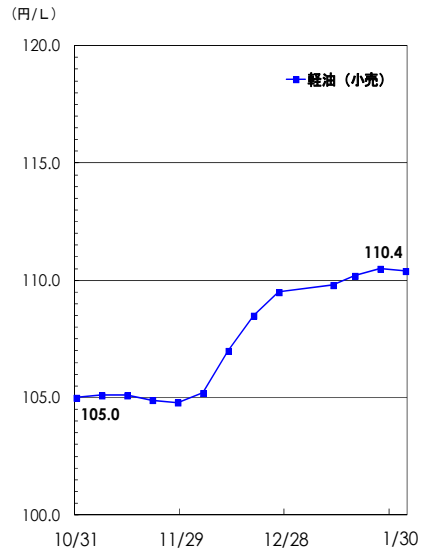
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

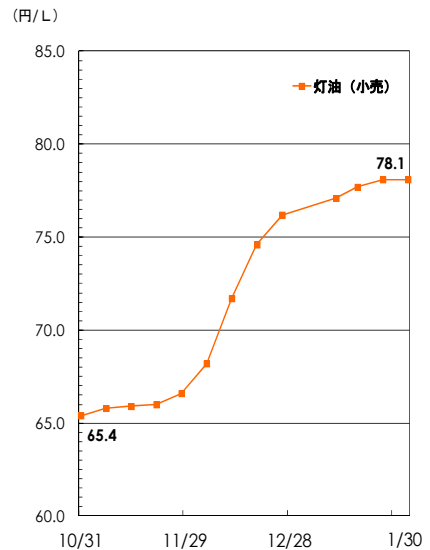
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/22 ~ 1/28	767 ▼ -66	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	698 ▲ 7	▲ -	
	輸出	"	293 ▼ -10	▼ -	
	在庫	1/28	1,486 ▼ -225	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/24 ~ 1/30	48.4 ▼ -1.4	▲ 14.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/24 ~ 1/30	46.0 → 0.0	▲ 6.6
		(TOCOM/中部)	1/30	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/30	110.4 ▼ -0.1	▲ 11.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/22 ~ 1/28	578 ▲ 66	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	764 ▲ 149	▲ -	
	輸出	"	20 ▼ -30	▼ -	
	在庫	1/28	1,798 ▼ -206	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/24 ~ 1/30	52.2 ▼ -0.9	▲ 18.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/24 ~ 1/30	49.8 ▼ -1.2	▲ 16.6
		(TOCOM/中部)	1/30	49.0 ▼ -0.5	▲ 14.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/30	78.1 → 0.0	▲ 16.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月1日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間石油統計が、原油在庫で前週比650万バレル増加と市場予想(同330万バレル増)を上回る増加を示したものの、減産が難しいと見られていたロシアの10万バレル/日減産報道など、協調減産の進展、さらに、FRBの連邦公開市場委員会(FOMC)の利上げ見送り声明による余剰資金の市場流入や景気拡大継続、ドル高回避等への期待が支援材料となり、続伸した。3月限の終値は前日比1.07高の53.88ドル、4月限の終値は前日比1.07ドル高の54.49ドルだった。

EIAによると、1月30日時点のガソリンの小売価格は前週比3.0セント値下がりの1ガロン2.296ドル(70.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値下がりの2.562ドル(78.2円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、1月22日～28日に休止したトッパー能力はゼロで前週に比べて8.6万バレル減少。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は387.9万klと、前週に比べ3.0万kl減少。前年に対しては9.1万klの増加。トッパー稼働率は92.0%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては5.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.6%増、ジェット/12.5%増、灯油/13.0%増、軽油/8.0%減、A重油/14.5%減、C重油/29.5%増。今週のC重油の輸入は6.4万kl(前週比4.1万kl増)。軽油の輸出は29.3万kl(前週比1.0万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比でもジェット、A重油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格は値下がり続き、小売価格も約2カ月振りの値下がりとなる中、ガソリンの出荷は101.3万kl(対前週3.3%増)と3週連続で前週比で増加、4週振りに前年比で増加となり、4週振りに100万klを超えた。

ジェット6.3万kl(対前週55.2%減)、灯油76.4万kl(対前週24.2%増)、軽油69.8万kl(対前週1.0%増)、A重油28.1

万kl(対前週16.4%減)、C重油43.6万kl(対前週54.4%増)。

(単位:千KL)

	今週 (1/22 ~ 1/28)	前週 (1/15 ~ 1/21)	前週比	
ガソリン	1,013	981	▲ 32	(3%)
ジェット燃料	63	141	▼ -78	(-55%)
灯油	764	615	▲ 149	(24%)
軽油	698	691	▲ 7	(1%)
A重油	281	336	▼ -55	(-16%)
C重油	436	282	▲ 154	(55%)
合計	3,255	3,046	▲ 209	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月28日時点の在庫はすべての油種で取り崩しとなった。前年に対してもすべての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.0万kl、前週差12.2万kl減。前年に対しては6.4万kl少ない。

灯油は179.8万kl、前週差20.6万kl減。前年に対しては10.8万kl少ない。

軽油は148.6万kl、前週差22.5万kl減。前年に対しては26.6万kl少ない。

A重油は73.9万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては6.6万kl少ない。

C重油は193.5万kl、前週差6.3万kl減。前年に対しては21.6万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (1/28)	前週 (1/21)	前週比	
ガソリン	1,710	1,832	▼ -122	(-7%)
ジェット燃料	920	931	▼ -11	(-1%)
灯油	1,798	2,004	▼ -206	(-10%)
軽油	1,486	1,711	▼ -225	(-13%)
A重油	739	769	▼ -30	(-4%)
C重油	1,935	1,998	▼ -63	(-3%)
合計	8,588	9,245	▼ -657	(-7.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月24日から1月30日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高でこれを一部相殺したものの、原油コストは3週振りに値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン101円台、軽油48円台、灯油52円台でほぼ横ばいだった。海上スポット価格は、ガソリン99~101円台、軽油47~49円台、灯油50~51円台、先物価格はガソリン102~103円台、軽油46円台、灯油49~50円台で、こちらも横ばいからやや値下がりである。元売の卸価格は据え置きから2.0円の値上がりだった。

東燃ゼネラルは2月2日、4日以降の外販スポット価格を、ガソリンを1.0円値上げし、その他の油種は据え置き旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値下がりしたこと、製品スポット市況も引き続き軟調に推移した。週間のガソリン販売量は持ち直し、100万klを超えた。

2月第1週(2月2日~2月8日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1月24日~1月30日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.9円、灯油は0.9円、軽油は1.4円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円、灯油は1.1円、軽油は0.2円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油が1.2円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がり、為替は円高で一部相殺したものの、原油コストは値上がりとなったが、製品スポット価格は引き続き軟調に推移した。

2月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きから2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (1/24 ~ 1/30)	前週 (1/17 ~ 1/23)	前週比
スポット価格	レギュラー	47.4	48.3	▼ -0.9
	灯油	52.2	53.1	▼ -0.9
	軽油	48.4	49.8	▼ -1.4

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (1/24 ~ 1/30)	前週 (1/17 ~ 1/23)	前週比
先物価格	レギュラー	49.4	49.2	▲ 0.2
	灯油	49.8	51.0	▼ -1.2
	軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/24~1/30実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.9	▲ 0.2	▼ -0.4	
灯油	▼ -0.9	▼ -1.2	▼ -1.1	
軽油	▼ -1.4	➡ 0.0	▼ -0.7	
A重油	▲ 0.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下りの131.0円、軽油が前週比0.1円値下りの110.4円、灯油は前週比横ばいの78.1円だった。ガソリンは8週振りの値下がり、軽油も8週振りの値下がり、灯油は15週振りに値上がり止まった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは16県、横ばいは4県、値下がり27都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の126.2円(前週比0.6円安)、次が徳島県の126.5円(同0.9円安)だった。最高値は長崎県の139.0円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上

がりしたのは前週比1.2円高の岩手県(130.1円)、値下がり県は1.3円安の神奈川(127.6円)、横ばいが長崎県(139.0円)、滋賀県(133.4円)、秋田県(132.8円)、高知県(132.6円)の4県だった。

原油コストは値下がりし、8週振りでガソリン小売価格は値下がりした。今週の元売会社の卸価格は据え置きから2.0円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートはやや円高となったが、原油コストは値上がりしたことから、次週(2月6日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
	今週 (1/30)	前週 (1/23)	前週比			
小売価格	レギュラー	131.0	131.1	▼ -0.1	08/8/4	185.1
	灯油	78.1	78.1	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	110.4	110.5	▼ -0.1	08/8/4	167.4

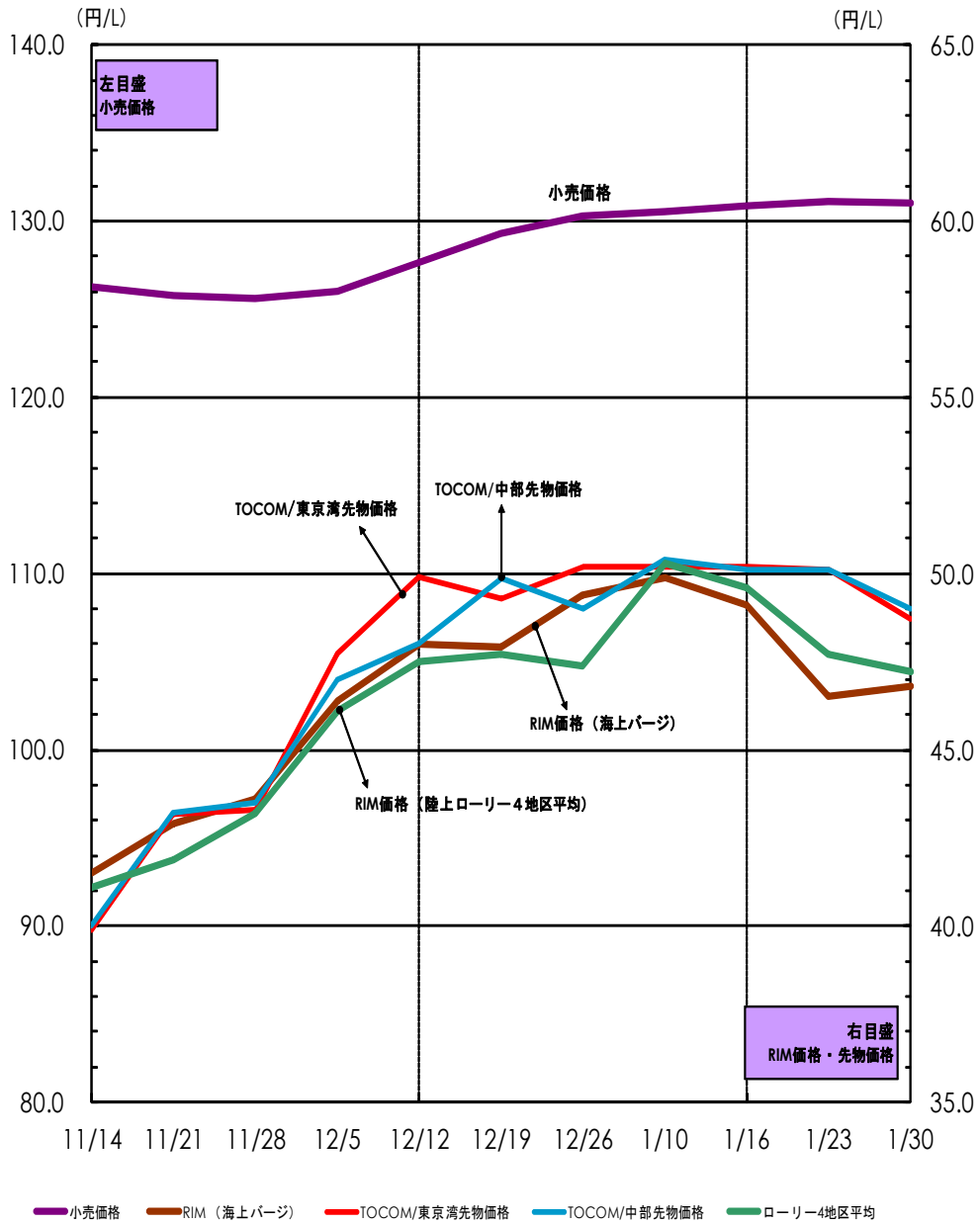
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/11/14 ~ 2017/1/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第43号)の公表は、2/10(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。